

化学教育 徒然草

古い教科書を捨てる前に

INOUE masayuki

井上 正之

東京理科大学理学部第一部化学科 教授
日本化学会化学用語検討小委員会 委員, 日本化学会グリーン小委員会 委員



筆者の所属する東京理科大学大学院理学研究科科学教育専攻には、修士論文において主論文と副論文の両方を執筆する制度がある。主論文が理学的内容（例えば、反応や触媒、化合物の検出法の開発）であれば、教育的内容の副論文を作成する必要がある。これは逆の組み合わせでもよい。筆者の研究室では、修士課程の学生の主たる研究テーマは化学実験系すなわち理学的内容である。例えば、新規な実験教材の開発に関するものであれば、学校現場にお願いしてその実験を生徒に行う機会をいただき、質問紙調査などを通じて教材としての有効性を評価するという副論文が成り立つが、主論文のテーマによってはこれができないことがある。このような場合には、学生を東京都墨田区にある教科書図書館（公益財団法人教科書研究センター）に行かせて、過去から現在の教科書におけるあるテーマの記述の変遷を調査させることがある。この図書館にはアジア太平洋戦争後の全社の初等・中等教育用の教科書が収蔵されており、このような調査を行うためには、大変にありがたい施設である（開館日が少ないという点には目をつぶるとしよう）。例えば、昭和40年代より古い教科書には、現在の教科書には記載されていない実験が記載されていることがあり、その実験が行われなくなった背景（操作の危険性や当時は重視されていなかった試薬の毒性など）を考察するという調査研究ができる。また教科書のある項目（例えば、水銀とその化合物）に注目し、記述内容がどのように変遷しているのかを調べて、社会的な背景を交えて考察させるなどの調査研究も考えられる。

東京都にはこのような図書館があるが、地方ではこうした調査のために適した施設が極めて少ない。読者諸氏が勤務する学校に古い教科書がある場合には、それは立派な文献になる。廃棄する前に電子情報にして保存し、所有の情報を近隣の学校で共有すると良いであろう。あるいは地域の教育センターをハブとして、こうした情報が共有できると、きっと役に立つ。化学に限らず、教科書の情報を活用した上記のような調査は、教科・分野の横断を視野に入れた探究活動のテーマにもなるのではないだろうか。

[連絡先]

103-0004 東京都新宿区神楽坂1-3（勤務先）